

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000167		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンターとよた美里 (1F ひまわり)		
所在地	愛知県豊田市美里2丁目5-3		
自己評価作成日	令和 2年10月23日	評価結果市町村受理日	令和 3年 4月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyouvoCd=2393000167-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 2年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様とスタッフが一つの家族として、入居者様の力をお借りし共に助け合いながら、笑顔あふれるマイホームの理念として、四季折々の行事を大切に、日々の生活を穏やかに過ごしていただけるように支援していきます。ご自身の出来る事を多く引き出せるように日々利用者様の把握に努めている。女性の利用者様は洗濯物をたたんだり、食器拭きやテーブル拭きは毎日のように職員と一緒に、簡単な調理等も積極的に参加出来るようにしている。また、男性の利用者様には体力もあるので布団干しを手伝っていただいたり、普段したことがない部屋の掃除等にも積極的に参加していただいている。コロナの影響により外出ができなくても地域との繋がりは大切にしている。また、おやつ作りなど、レクリエーションに力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「笑顔あふれるマイホーム」のホーム理念の通り、利用者が主体となって家族や職員の協力の下、穏やかな笑顔の生活が営まれている。日々の生活の中で、利用者の出来ることを引き出し、やりたいことができるよう、グループホームが目指す本来の支援に取り組んでいる。管理者は「地域密着」を意識し、コロナ禍にあっても、キッズステーションの子どもとの交流を継続している。区長や民生委員をはじめ、ホーム周辺の事業者や施設などへ離設時の対応協力や声掛けを依頼するなど、利用者が地域で生活しやすいように配慮している。利用者は職員の支援を受けるだけでなく、他の利用者へ読み聞かせをしたり、配膳・下膳を手伝ったりと、利用者同士が支援し合える環境作りにも取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自社はホームの理念を大切にし常に利用者様のことを考え立場になった環境作りをしている。毎月ユニットごとに目標を立て実施している。	ホーム理念「笑顔あふれるマイホーム」を掲げ、利用者の笑顔を引き出している。四季折々の行事を通して、その人らしい生活が継続できるよう支援している。職員は、ユニット目標に沿った支援を実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルス感染予防の為、ボランティアなどの交流は現在ひかえております。キッズステーションとのプレゼントのやり取りはしています。	徘徊・離設時の声掛け・搜索のため、ホーム周辺の事業者や施設を一覧にまとめ、協力を要請している。近隣のキッズステーションとの交流は、コロナ禍でも継続されており、地域密着の実践に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験を実施予定だったがコロナの影響により延期となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響により、3月以降の運営推進会議は中止している。ご家族様多数のご要望により8月理美容の利用を再開した。	運営推進会議と家族会とを併催することで、家族参加が多い。区長や民生委員、行政等が参加し、意見や要望を収集し、アドバイスも得てホーム運営に活かしている。市に確認し、4月以降は書面開催としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナの影響により月1回の介護相談員の訪問は中止している。本社からの許可が下り次第再開する予定。	コロナ禍におけるホーム運営などの相談を適宜行っている。市主催の研修への参加や地域包括支援センターからの入居希望者紹介、民生委員との地域活動等々、可能な協力・連携を積極的に行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はおこなっていないが、利用者様の状況によりやむを得ない場合は、スタッフ間で協議し家族に説明し同意を頂くようにしている。	「虐待・身体拘束廃止委員会」を職員全員参加で毎月開催し、身体拘束の弊害の認識・防止に取り組んでいる。転倒防止など、安全を考慮してセンサーやベッド柵を設置する場合は、職員間で協議して家族に説明し、同意を得た上で実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回、虐待防止について研修をおこない意識向上につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者研修や実践者研修に参加している。自治体が開催する研修制度にも参加し学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、制度改定時には家族が納得するまで説明し同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナウイルス感染予防の為、外部者と意見交換の場はない状態。ときおり電話にて話しています。	運営推進会議に家族参加が多く、忌憚のない意見・要望が出ている。エアコン清掃の意見には、毎月フィルター清掃をするなどの対応をしている。面会自粛中、事務所内からホーム内を見てもらう対応をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のミーティングで意見や提案を聞いている。それ以外でも話しやすい環境を作っている。	月1回のミーティングで、利用者に提供する食事形態などの支援方針や方法に関する意見・要望、提案がある。管理者も介護現場に入ることがあり、話しやすい職場環境となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社独自のキャリアアップ制度で、年に1回試験や面談をしている。給与に反映できるシステムがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務年数に合わせた研修があれば提案している。また、積極的に法人外の研修への参加も提案している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	部会の研修に参加したり行政が主催する研修等に参加し常に交流する機会を設けサービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人に直接伺っても施設入所に不安はあると思うが、何気ない会話の中で困っていることなどを伺っている。また、家族の要望を伺い安心して暮らせる環境を作れるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設生活に不安を感じている方も多いため、細かく説明している。要望等をしっかり傾聴しよい環境作りができるように心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の希望や必要としているサービスがあれば本人にあった他のサービスの内容を説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日、食器拭きや食器洗い、フロアのモップ掛けなどを一緒に行い共に暮らす環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪された時には、普段の様子を話し、利用者様家族がゆっくり過ごせる環境を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナウイルス感染予防のため、馴染みの人や場所に赴くことができない状態です。	知人・友人の訪問があり、年末年始は自宅で過ごす利用者もいる。通院・外食・買い物など、家族の協力を得て馴染みの場所へ出かけている。8月からは訪問美容も再開され、以前の関係が継続されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新しい利用者様に対しては、職員が間に入り談話出来る様に支援している。相性の良くない利用者があり、争いがおきる前に職員が間に入り対処している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等になっても相談を受けている。また、新しい施設への入所などの相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	しっかりとアセスメントを行い常に意見を把握するようにしている。カンファレンス等で個別対応を常に検討している。	ゆっくりと時間をかけて利用者と接し、話や仕草・表情を観察することで利用者の思いや意向を把握している。汲み取った思いや意向は、口頭や申し送りで職員間で共有し、介護計画へつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活シートを作成しご家族から暮らし等を伺い、日々の生活に活用している。また、本人から昔の暮らしを伺うなどしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事出来ないことをしっかり見極め本人ペースに合わせた暮らしが出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回カンファレンスを開催し意見交換を行い家族から伺った意見や要望等を共有している。本人の状況にあわせた計画書を作成している。	介護計画の見直し時にモニタリングを行っている。短期6ヶ月、長期12ヶ月の定期的な見直しの他に、状態や意向の変化による見直しもある。本人や職員の意見も取り入れた介護計画の作成に取り組んでいる。	サービス担当者会議に、家族参加が得られていない。予め家族の参加可能日を聞き取る等、家族参加を得た会議開催の工夫が望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を記入し申し送りをしてスタッフ間で情報を共有している。計画書にも活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向を大切に家族の希望に出来るだけ添えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナウイルス感染予防のため、外出を控えており地域資源の活用などはしていない状況。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、提携医により往診を実施している。家族の意向で提携医以外のかかりつけ医があれば支援している。	入居時に医療体制に関して説明し、全員がホーム協力医をかかりつけ医として月2回の往診を受けており、訪問歯科も利用できる。訪問看護師は24時間対応であり、適切な医療連携体制が構築されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護、月2回の往診時に日々の様子を報告・相談している。利用者様の状態変化がある場合は電話にて相談し対処している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、介護サマリーを送り医療機関と連携を図り早期退院ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて家族や医師と相談し方針等を決定するように努めている。	入居時に、重度化・終末期の看取り支援をしない旨を説明している。利用者・家族の要望もあり、医療関係者と連携してできる限りホームで過ごせるよう支援している。利用者の状態に応じて早めに家族と相談し、適切な施設への移行支援に努めている。	看取り支援は実施していないが、結果として看取りを実施するケースも想定される。重度化した際の支援方法や心構えなども含め、研修や勉強会を実施しておくことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署による急変や時事発生等の研修を行っていたが、今年はコロナの影響で実施できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行う事になっていたが3月延期となっていたが9月に行った。	年2回火災想定避難訓練を実施し、所要時間を計測して反省点を次回訓練に活かしている。3日分の備蓄をしているが、運営推進会議では備蓄に関して「周辺住民分を考慮しているか」等の意見も出ている。	夜間の火災避難時など、手薄な職員体制も想定されるため、区長や民生委員などに働きかけ、地域協力が得られるよう運営推進会議等で要請しておくことが望まれる。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のプライバシーを守り一人ひとりに合わせた声かけを行っている。	利用者の発語や行動を否定しないように支援している。利用者に触れてゆっくり話すなど、「ユマニチュード」を意識した支援に努めている。入室時のノックやトイレの閉扉等、プライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者様の状況を把握しコミュニケーションをとりながら自己決定が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に本人のペースに合わせた暮らしが出来るように心がけていえる。本人の希望等があれば支援出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回理美容を行い、常に清潔な衣服を着用していただくようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食後の片付け(食器拭き、お盆拭き、テーブル拭き)などを一緒に行っている。希望等を伺い四季に応じた食事等を提供している。	主菜は宅配の調理済料理を活用し、ご飯・汁物、副菜は職員が調理して提供している。トロミや刻み、ミキサー食に加え、予め分かれれば代替食を用意するなど、利用者の状態や希望に応じて柔軟に対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量等、常に把握し利用者様の状態にあわせて提供している。体重測定も実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声かけで口腔ケアは必ず行っている。利用者様や家族からの要望があれば歯科往診で治療等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録等で排泄パターンを把握。声かけでトイレ介助等を行い自立に向けた支援をしている。	利用者ごとの排泄パターンを把握し、利用者のタイミングに合わせた声掛け・誘導で、トイレでの排泄支援に努めている。夜間は睡眠を重視し、不快感を与えないような支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日2～3回の運動の実施や室内散歩の声かけ、食事の量や水分の量などに気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回は入浴できるようにしている。入浴を敬遠される方には、入浴の大切さ、気持ち良さを伝え入浴していただいている。	週2～3回の入浴を支援している。入浴拒否の強い場合は無理強いせず、時間や日にち、声掛けの方法等を変えて入浴を促している。ゆっくり入浴したり話をしたりと、利用者は入浴時間を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	週1回のシーツ交換及び天気の良い日は布団を干している。就寝時は空調の調整もしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルをユニットごとに設置している。利用者様の状況を医師に伝えている。薬の変更等があれば薬情報を確認し薬について理解を深めるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の意向を伺い役割をもった暮らしが出来る様に心がけている。出来ない利用者様には出来そうなことを見つけ気分転換等が出来る様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染のリスクを避ける為外出支援はしていない。	コロナ禍のため、散歩を含め外出自粛中であり、ウッドデッキでの日光浴や洗濯物干し、家庭菜園の水やりなどで外気に触れている。散歩や買い物等の日課、花見やお祭りへの参加、また家族の協力を得ての外出支援等を、利用者は心待ちにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持を希望される利用者様がおらず、所持していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が希望された時は、ホームの電話を用いて会話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や色等に配慮して心地よく過ごされる環境を作っている。また、自身で季節を感じ取れる作品等を作っている。	日中、利用者は居間で過ごすことが多く、やりたいことができ、居心地よく過ごせるように心掛けている。華美にならないように季節を感じる作品や写真を飾り、利用者との話の端緒としている。モップ掛けなど、利用者の協力も得て清潔感を保っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	部屋でテレビを見るなど休んでいただいたり自由に過ごせる環境がある。また、気の合う利用者様同士が以前の生活や家族のことなど自由に話せる環境がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものや必要である物もってきたいただき心地よく過ごせる環境作りをしている。(写真・椅子・机・筆筒)	居室に、使い慣れた物を持ち込んでいる。入居当初は、思い入れのある椅子で寝る利用者もいた。家族の写真を飾ったりテレビを見たりと、利用者が自分自身の部屋として、安心して過ごせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活歴や家族からの情報をもとに、出来ることは出来る限りやっていたい。自立に向けた生活が送れるように環境を整えている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2393000167		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンターとよた美里 (2F すずらん)		
所在地	愛知県豊田市美里2丁目5-3		
自己評価作成日	令和 2年10月23日	評価結果市町村受理日	令和 3年 4月 9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoNo=2393000167-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市緑区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
訪問調査日	令和 2年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様とスタッフが一つの家族として、入居者様の力をお借りし共に助け合いながら、笑顔あふれるマイホームの理念として、四季折々の行事を大切に、日々の生活を穏やかに過ごしていただけるように支援していきます。ご自身の出来る事を多く引き出せるように日々利用者様の把握に努めている。女性の利用者様は洗濯物をたたんだり、食器拭きやテーブル拭きは毎日のように職員と一緒に、簡単な調理等も積極的に参加出来るようにしている。また、男性の利用者様には体力もあるので布団干しを手伝っていただいたり、普段したことがない部屋の掃除等にも積極的に参加していただいている。コロナの影響により外出ができなくても地域との繋がりは大切にしている。また、おやつ作りなど、レクリエーションに力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--	--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	自社はホームの理念を大切にし常に利用者様の立場になって考え、よりよい環境作りを行っている。毎月ユニットごとに目標を立て実施している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナウイルスの影響で実施は難しいが繋がりを大切にしている。敬老会で玄関先までだがキッズステーションの来訪があった。区長様より秋祭り招待を受けたが参加には至っていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験を実施予定だったがコロナの影響により延期となっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナの影響により、3月以降の運営推進会議は中止している。ご家族様多数のご要望により8月理美容の利用を再開した。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナの影響により月1回の介護相談員の訪問は中止している。本社からの許可が下り次第再開する予定。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束はおこなっていないが、利用者様の状況によりやむを得ない場合は、スタッフ間で協議し家族に説明し同意を頂くようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年2回、虐待防止について研修をおこない意識向上につとめている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し学ぶ機会を設けている。分からないことはその都度調べ職員間で共有するようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、制度改定時には家族が納得するまで説明し同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置。コロナの影響により面会はできないが玄関先への来訪時や電話対応時にご家族様の意見や要望を伺っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回のミーティングで意見や提案を聞いている。それ以外でも話しやすい環境を作っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	会社独自のキャリアアップ制度で、年に1回試験や面談をしている。給与に反映できるシステムがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の勤務年数に合わせた研修があれば提案している。また、積極的に法人外の研修への参加も提案している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	部会の研修に参加したり行政が主催する研修等に参加し常に交流する機会を設けサービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアマネージャーやご家族様、ご本人様から今までどのような生活を送ってこられたのか、そこから役割のある生活や生きがいを感じられる生活が送れるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居以前に見学や申し込みに来訪された時にまず最初にどのようなことで困っているのか、どのような不安を抱えているのかを時間をかけてゆっくりと傾聴するよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の希望や必要としているサービスがあれば本人にあった他のサービスの内容を説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日食器洗いや洗濯物たたみ、洗濯物干し等を会話しながら一緒に行い、共に支えあう環境作りを実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナの影響により面会をすることが出来ないが、玄関先まで来訪されたときや電話などでご本人様の様子をお伝えするようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナの影響で面会できないため、リモート面会を実施しご家族様やご友人の方と顔合わせをすることにより関係継続の支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新しい利用者様に対しては、職員が間に入り談話出来る様に支援している。相性の良くない利用者があり、争いがおきる前に職員が間に入り対処している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院等になっても相談を受けている。また、新しい施設への入所などの相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	しっかりとアセスメントを行い常に意見を把握するようにしている。カンファレンス等で個別対応を常に検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活シートを作成しご家族から暮らし等を伺い、日々の生活に活用している。また、本人から昔の暮らしを伺うなどしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	出来る事出来ないことをしっかり見極め本人ペースに合わせた暮らしが出来る様に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回カンファレンスを開催し意見交換を行い家族から伺った意見や要望等を共有している。本人の状況にあわせた計画書を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録を記入し申し送りをしてスタッフ間で情報を共有している。計画書にも活かせるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人の意向を大切に家族の希望に出来るだけ添えるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナの影響で、地域資源の活用ができていない。制限が緩和されたらボランティアや散歩・買い物の支援等を再開する予定。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回、提携医により往診を実施している。家族の意向で提携医以外のかかりつけ医があれば支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護、月2回の往診時に日々の様子を報告・相談している。利用者様の状態変化がある場合は24時間体制で連絡を取れるようにしている。主治医とも連携がとれるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は、介護サマリーを送り医療機関と連携を図り早期退院ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	先の事を見据えてご家族様と話し合う機会を設けてその時期が来たときに特養や療養型施設などの提案をさせていただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防署による急変や時事発生等の研修を行っていたが、今年はコロナの影響で実施できていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行う事になっていたが3月は延期となっていたが9月に行う事ができた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のプライバシーを守り一人ひとりに合わせた声かけを行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者様の状況を把握しコミュニケーションをとりながら自己決定が出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	常に本人のペースに合わせた暮らしが出来るように心がけていえる。本人の希望等があれば支援出来るようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナの影響により理美容は中止していたが、多数のご家族様のご要望があり8月より再開した。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食後の片付け(食器拭き、お盆拭き、テーブル拭き)などを一緒に行っている。希望等を伺い四季に応じた食事等を提供している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分や食事の摂取量等、常に把握し利用者様の状態にあわせて提供している。体重測定も実施している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声かけで口腔ケアは必ず行っている。利用者様や家族からの要望があれば歯科往診で治療等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	記録等で排泄パターンを把握。声かけでトイレ介助等を行い自立に向けた支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一日2～3回の運動の実施や室内散歩の声かけ、食事の量や水分の量などに気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2～3回は入浴できるようにしている。入浴を敬遠される方には、入浴の大切さ、気持ち良さを伝え入浴していただいている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調や寝具の調整、シーツの交換、布団干しなどをして快適に睡眠できるようにしている。利用者様一人一人の生活習慣を合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ファイルをユニットごとに設置している。利用者様の状況を医師に伝えている。薬の変更等があれば薬情報を確認し薬について理解を深めるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の意向を伺い役割をもった暮らしが出来る様に心がけている。出来ない利用者様には出来るようなことを見つけ気分転換等が出来る様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出支援ができていない。外出許可が下りたら散歩や買い物ご家族様支援にて外食や外出を再開する予定。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の所持を希望される利用者様がおらず、所持していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	8月より毎週日曜日に予約制でリモート面会を居室にて実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快な音や色等に配慮して心地よく過ごされる環境を作っている。また、自身で季節を感じ取れる作品等を作っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ご利用者の相性や動線を考慮し席替えやテーブルの配置を変えて対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使い慣れたものや必要である物を持ってきていただき心地よく過ごせる環境作りをしている。(写真・椅子・机・筆筒)		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活歴や家族からの情報をもとに、出来ることは出来る限りやっていたい。自立に向けた生活が送れるように環境を整えている。		